

---

## 岐阜県立岐阜商業高等学校

校 長 村上 宏俊  
学校住所 岐阜市則武新屋敷1816-6 電話 058-231-6161

---

### 学校運営協議会 会議実施報告書

このことについて、「岐阜県立学校における学校運営協議会の設置等に関する規則」第8条第1項に基づき、次のとおり学校運営協議会を開催しましたので、その概要について報告します。

- 1 会議名 岐阜商業高等学校 学校運営協議会 (第3回)
- 2 開催日時 令和8年2月10日 (火) 13:30~15:00
- 3 開催場所 岐阜商業高等学校 校長室
- 4 参加者

会 長	川島 政樹	カワボウ株式会社 代表取締役社長
副 会 長	大友 克之	朝日大学 学長
委 員	和田 直也	本校OB
	大野 裕美	早田公民館 元館長
	関口 茜	全日制PTA特別活動委員長
	藤井 彰子	定時制育友会副会長 (欠席)
学 校 側	村上 宏俊	校長
	奈波 宏和	副校長
	清水 尚	事務部長
	下平 昌子	教頭
	水谷 貴郎	教頭 (欠席)
	後藤 敦史	教務部長
	石川 勝久	商業教育推進部長
	糸井 統	生徒指導部長
	大池 須美子	進路指導部長
	黒田 匠馬	特別活動部長

#### 5 会議の概要 (協議事項)

- (1) 学校長挨拶
- (2) 生徒の活動について (株主総会オンライン参観)
- (3) 令和7年度の成果と課題
- (4) 令和8年度に向けて
- (5) ご講評及びご助言
- (6) その他

意見1: 本校の今年度の実績として、甲子園ベスト4進出や簿記部・EDP部の全国優勝など、全国レベルでの活躍が多く見られた。一方で、こうした成果の裏側で、教員・生徒双方に“多忙感”が広がり、それが学校全体の“閉塞感”につながっているのではないかと懸念されている。学校として伝統を大切に

てきた「充実した活動」と、多忙化の進行をどのように両立させていくか、来年度に向けて取り組むべき重要な課題である。

⇒ 教職員の時間外勤務が県内でも高い水準にあり、条例基準を超過している。月 45 時間を超える勤務が常態化し、100 時間を超えるケースも見られるなど、他校と比較しても倍近い負担となっている。こうした状況を踏まえ、学校としては改善に向けた取り組みを進める一方で、現行の業務体制では基準の遵守が難しい面がある。今後は、業務の見直しや役割分担の再構築を図り、教職員の働きやすい環境づくりに向けて継続的に取り組んでいく。

意見 2： 主体性を育むためには、学習の“余白”を確保し、個々の生徒に合った最適な指導が必要である。また、その実現に向けては、学びの過程を可視化し、指導の方法や手立てを具体的な形として示していくことが課題である。さらに、学びの成果をどのように評価するかという指標を整えることや、指導のメソッドを体系的に整理していくことも今後の重要な取り組みである。

意見 3： 多様性を尊重した学びの在り方を検討する必要がある。また、部活動の価値を改めて見直し、その教育的意義をどのように維持・発展させていくか、さらに、持続可能な運営のためには、人員配置やシフトの設計を工夫し、無理のない体制づくりを進めることが求められる。加えて、事務機能の DX 化を進め、業務の効率化と負担軽減を図ることが必要である。

意見 4： 教員の負担軽減に向けては、専門性をもつアドミニストレーターの導入が必要である。また、働き方改革を進めるためには、個々の努力に依存するのではなく、学校組織全体の構造を見直すことが不可欠である。OB など外部からの期待が結果として教員の負担増につながっている。こうした課題は学校単位にとどまらず、国家レベルの改革の文脈で捉えるべきである。

意見 5： 来年度から実施予定の“LOB チャレンジデー（仮称）”の目的や実施方法については、ねらいを明確にし、生徒が主体的に参加できる仕組みづくりを進めていくことが重要である。

⇒ “LOB チャレンジデー（仮称）”は生徒主体の挑戦の機会として位置づけるとともに、その取り組みをクラス内で共有し合うことが大切である。また、本取組は登校日として扱うのではなく、授業を実施しないことを前提としており、その時間を教員の事務作業の確保につなげることを目的としている。

意見 6： 地域行事への参加呼びかけで、少しでも生徒の心身の負担軽減の支援をしていきたい。生徒の小さな変化に地域住民が気づき、共有する仕組みづくりができればよいと考える。

意見 7： 生徒は、受験準備・部活動・資格取得が重なり過密化している。具体的には、帰宅時間の遅さや睡眠不足、連続して休みが取れない状況など、生徒の疲弊につながっている。生徒の負担をどのように把握し、改善につなげていくかが課題である。

意見 8： 読書量不足が作文力不足を招いている。短編でもよいので低年齢から読む習慣が重要であるが、家庭での支援の難しさも感じている。

意見 9： 検定資格の取得が増えすぎている現状を踏まえ、内容を見直して必要なものを精選していくことが求められている。生徒がゆとりをもって学び、日々の学校生活をより豊かにするためには、時間や気持ちの“余白”を大切にすることの重要である。

意見 10： 来年度から日課が変更され、朝 SHR が廃止される。それに伴い出欠・安否確認が確実にできるのか心配である。学校側の対応をお聞きしたい。

⇒ すぐーるの活用や新しいシステムの構築を進めている。始業開始時点の把握を目指す。

## 6 会議のまとめ

生徒の活動報告として、株主総会の一部をオンラインで視聴し、今年度の成果を共有した。続いて、各分掌長より令和7年度の成果と課題について報告があり、学校長からは来年度に向けた取り組みの方向性が示され、委員の方々と共有することができた。委員からは多岐にわたる提言や助言を得ることができ、学校運営に対する多角的な視点を改めて認識する機会となった。これらの意見を踏まえ、今後の学校運営の改善と充実に向けて取り組みを進めていきたい。